

第1回旭川市運動部活動の地域移行に関する懇話会 会議録

日時	令和5年8月18日(金) 午後6時～午後7時30分	
場所	旭川市第三庁舎1階会議室	
出席者	参加者	6人(敬称略・五十音順) 赤堀 達也, 大熊 修一, 加藤 伊織, 鎌本 かおり, 川崎 亮, 武田 英夫
	オブザーバー	5人 (社会教育部) 主藤次長, 小島社会教育課主幹, 坂本文化振興課長 (教育委員会教育指導課) 工藤課長補佐, 柳澤主査
	事務局	3人 (スポーツ課) 松田課長, 加藤課長補佐, 松本
会議の公開・非公開の別	公開	
傍聴者	0人(市民0人, 報道0人)	
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 参加者の紹介 4 進行役の互選 5 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 懇話会の運営等について (2) 運動部活動の地域移行に向けた国や北海道の動向について (3) 運動部活動の地域移行に向けた実証事業について 6 その他 7 閉会 	
会議資料	資料1 旭川市運動部活動の地域移行に関する懇話会参加者名簿 資料2 旭川市運動部活動の地域移行に関する懇話会開催要綱 資料3 部活動の意義・位置付け 資料4 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン【概要】 資料5 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】 資料6 北海道部活動の地域移行に関する推進計画【概要】 資料7 運動部活動地域移行に向けたモデル事業について 資料8 令和4年度部活動の地域移行に関するアンケート調査結果【概要】	
議事内容等	発言者	発言の要旨
議題 (1)懇話会の運営等について	進行役	議題(1)について事務局から説明願います。
	事務局	(資料2に基づき, 開催要綱及び懇話会の運営方法に関する取扱いについて説明。)
	進行役	只今説明のあった点につきまして, 御質問や御意見等ございませんか。
	参加者	(質問・意見なし)
	進行役	懇話会の運営方法について, 案のとおりとします。
議題 (2)運動部活動の地域移行に向けた国や北海道の動向について	進行役	議題(2)について事務局から説明願います。
	事務局	(資料3～6に基づき, 国や道の運動部活動の地域移行に向けた動向について説明。)
	進行役	只今説明のあった点につきまして, 御質問や御意見等ございませんか。
	参加者	自分の子供が部活動に加入していたが, 体を動かすだけでなく, 縦や横との繋がりや先生との信頼関係の構築に大きな意義があったと感じている。担任以外との先生との関りによって大人との付き合い方なども学んでいたと思う。
	参加者	学校関係者の立場から言うと, 部活動は生徒指導上でも非常に重要な役割を果たしてきている。しかし, 生徒数が減少してきていることや教員の働き方改革の観点から部活動の在り方が問われており, まずは休日の部活動から地域移行していくことが国のガイドラインや道の推進計画に記載されていると理解した。

参加者	<p>具体的な将来像がイメージできていないが、少子化が進んだことにより現状、小学校でも野球やサッカーの少年団が学校単位では団員が集まらず合同チームで活動しているが、今回の中学校における部活動の地域移行は近隣の複数校での合同部活動又はクラブチームのような地域での活動として推進する方向のどちらへ向かうのか。</p> <p>また、中学校の現役教師の中には引き続き部活動の指導者として携わりたい方も一定数いるかと思うがそういった方はどうなるのか。</p>
事務局	<p>部活動の地域移行については、一つではなく様々な形があると思っている。合同部活動についても一つの形であるが、国が進めるのは学校ではなく地域の団体が受け皿になるものである。そこには希望の教員も現在の基準を変えて参加できるようになっていく。受け皿の問題や指導者確保、謝礼の財源などの課題がある中で具体的な一つの形を現時点ではお示しできないが、この後説明する実証事業を通して検討を進めたいと考えている。</p>
参加者	<p>学校現場では、ガイドラインが下りてきて様々な議論はあるものの今年度は大きな変化がない形で部活動が行われている。そんな中でも少しずつ変化があり、クラブチームも申請することで中体連に参加できるようになり個人種目を中心に6競技10団体のクラブチームが参加している。</p> <p>また、全道や全国大会に出場する際に受け取ることのできる補助金の対象にもクラブチームが追加された。</p> <p>顧問の教員の休日の指導については、現時点では切り離すことができずお願いを続けている状況である。</p>
参加者	<p>保護者が任意で加入して組織されている部活動後援会から大会補助や消耗品、ユニフォームの新調などに各部活動に補助金が出ているかと思うが、合同部活動が増えてきていることで不平等などの問題は起こっていないのか。</p>
参加者	<p>基本的に生徒一人当たりに対して支出しており、合同部活動の場合はそれぞれの学校から生徒数に合わせて支出されることから不平等が発生することはないと考える。</p> <p>部活動については部活動後援会等から一部補助があるが、クラブチームに所属する生徒については全く支出されておらず、保護者や各競技協会が高額な負担金を負担する必要があるため課題となっている。</p>
参加者	<p>市外・道外の状況になるが5年前まで神奈川や静岡で部活動の指導を行っていた際は、部活動の活動時間の制限が非常に強く、1日数十分のみなどほぼ活動できないような状況であった。こちらに来てから地域によって大きな差があることを認識した。</p>
参加者	<p>部活動の時間に関する制限は北海道や旭川にもあり、部活動のガイドラインが設けられている。教員の働き方改革と子供の過度な運動を防止することを目的に、平日は2時間、休日も土日のいずれかで3時間など制限がある。</p>
参加者	<p>活動時間の2時間や3時間は何を根拠に決められているのか。アップとクールダウンだけでも1時間以上かけるべきところ、多くの部活動では時間を割かなさすぎるのではないかと。子供は体ができていないなどの状況も考えるともう少し時間をかけてもいいのではないかと考えていた。アメリカなどでは週18時間など決まっており、シーズン制や勉強が一定程度できないと部活動に参加できないこともある。</p>
オブザーバー	<p>活動時間の2時間や3時間の根拠については、資料4の「3適切な休養日の設定」の中に医・科学的観点も踏まえた基準と記載されているが、時間もあくまで程度とあり、その活動時間にアップや片付け、ミーティングなどを含めるかは個別判断に委ねられているのではないかと。</p>
参加者	<p>学校部活動のメリットとして、生徒自らで活動場所と自宅を行き来できることがあると思うが、クラブチームでは親の送迎が必要であったり、活動場所が安定的に確保できないことにより十分な活動日数を確保できないこともあると聞いている。この部活動の地域移行は非常に複雑で難しい問題であり、クラブチームでの費用負担問題などにより、本当はスポーツをやりたいが機会がなくスポーツができない子供を生まないようにすることが重要であり、隣接する2～3校で合同部活動を推進してこれまでのような学校部活動を継続することも一つの考え方ではないかと。</p>
進行役	<p>その他、御質問や御意見等ございませんか。</p>
参加者	<p>(質問・意見なし)</p>
進行役	<p>それでは、国や北海道の動向について、以上とします。</p>
議題	<p>進行役 議題(3)について事務局から説明願います。</p>

(3)運動部活動の地域移行に向けた実証事業について

事務局	(資料7～8に基づき、本市で進める運動部活動の地域移行に向けた実証事業について説明。)
進行役	只今説明のあった点につきまして、御質問や御意見等ございませんか。
参加者	アンケート結果から休日には平日の部活動では体験できない活動や楽しむことを目的としたレクリエーションの活動を望む生徒が全体の約4割いるということで、競技性のみではなくそのような視点も持つ必要がある。
参加者	これまでは主に競技スポーツについての話であったが、競技スポーツ以外の生徒についても考える必要がある。総合型地域スポーツクラブでは、スポーツを通して子供から大人までのコミュニティを形成している。様々な種目に触れることができ、吹矢やポッチャ、フロアカーリングなどのほか、卓球やバドミントンを行っており、スポーツの楽しさを伝えるという目的では総合型地域スポーツクラブが有効であると思う。
参加者	将来的にクラブチームが充実してきた際に、競技性を求める生徒以外の受け皿になり得る組織であると感じた。ある意味これから目指す方向の一つになる。
参加者	日本は一つの部活をずっと続けることが多いが、もっと色々なスポーツに挑戦できる、又はシーズン制のように複数の種目を同時に行えるようになることを望む。
参加者	月謝を払うことで例えば日替わりや週替わりで様々な種目の活動に参加できることも選択できるようなシステムを構築し、旭川モデルを作るのもいいのではないか。
参加者	今回行う実証事業は今年度限りのものか。
事務局	道の委託事業ということで今年度だけの事業となる。ただし、今回の結果を踏まえ、これで終わりではなく、来年度以降も継続して何かしらの事業を行えないか財源も含め検討していきたい。
参加者	冬季になると屋外の部活動が屋内に入ってくることもあり、施設が全体的に足りないと感じる。廃校の有効活用や公民館の複合施設化などぜひ検討してほしい。地域移行が進むと更に施設が足りなくなることが予想される。
事務局	施設が不足している点については、現在花咲スポーツ公園の再整備の中で検討しており、市民利用の充実を図っていけるよう進めたい。また、施設をただ建て直したり改修するのではなく、複合施設として再整備することが主流となっている。
進行役	その他、御質問や御意見等ございませんか。
参加者	(質問・意見なし)
進行役	実証事業について、案のとおりとします。